

第1回 囲碁・将棋チャンネル放送番組審議会（議事概要）

1. 開催年月日：2012年9月4日（火）
2. 開催場所：私学会館 市ヶ谷アルカディア 5F 赤城
3. 委員の出席

▼出席委員

委員長	岡田 裕介	東映株式会社 代表取締役社長
	足立 盛二郎	日本郵政株式会社 取締役兼代表執行役副社長
	兵頭 俊夫	大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構 物質構造化学研究所特別教授
	音 好宏	上智大学 文学部 新聞学科 教授
	中村 幸雄	株式会社損保ジャパン 顧問
	金子 光男	明治大学附属明治高等学校・中学校 校長
	小川 誠子	囲碁棋士／囲碁棋士会会長
	関根 紀代子	将棋棋士／女流棋士会会長

委員総数：9名 出席委員数：8名

欠席：野田 慶人（日本大学 芸術学部 学部長）

▼放送事業者側出席者

岡本 光正 代表取締役社長
勝股 信昭 取締役
梅澤 秀行 業務部長
遠藤 健 業務課長
赤神 夏織（編成課）

4. 議題

- ・委員の紹介および委員長を選任、会則の制定、
- ・10月1日からの「スカパー！e2」「スカパー！HD」放送開始に伴う編成概要説明と意見交換

5. 議事の概要

①社長挨拶

②先生方のご紹介

③委員長の選任

④囲碁・将棋チャンネル 編成概要ご説明

- 10月以降の番組紹介
- 変更点
 - ① 「趣味・教養等」から「教育」へ
 - ② 放送規格の変更 → 「SD放送」から「HD放送」もしくは「SDスクイーズ放送」へ
 - ③ 災害対策放送サービスの開始 → ①緊急地震速報 ②地震情報・津波情報 ③気象警報
 - ④ 視覚障がい者対応 → 対局番組に「読み上げ係」を導入
 - ⑤ 聴覚障がい者対応 → 100%字幕付与
- 視聴者のご意見について

6. 審議内容

▼主な発言

【5-④：編成概要説明に関して】

- 江戸時代の碁などは個人的にはあまり興味が湧かない。各番組の視聴率が知りたい。(岡田委員長)

(囲碁・将棋チャンネル側)

- 次回、視聴率をまとめた資料をお渡しいたします。(遠藤)
- (概要説明の補足として-1) 緊急地震速報はテレビ画面上に表示されるが、録画データには反映されない。地震情報・津波情報、気象警報については反映される。(岡本社長)
- (概要説明の補足として-2) 聴覚障がい者向けに「100%字幕付与」としているが、受信機器によっては表示されない。(岡本社長)
- (概要説明の補足として-3) 番組と連動した囲碁イベント、将棋イベントを主催している。最近では、子ども将棋大会や囲碁アマチュア竜星戦など。(岡本社長)

【囲碁・将棋の教育と普及に関して】

- 教え方に、何か『これは』という方法が無い。そのツールとして、メディアが貢献すると非常に良い。(足立委員)
- 日本棋院を通じて、囲碁を覚えてどう変わったか(例えば、落ち着きが出た、成績が上がった等)のデータを集めている。きちんとした形でまとめたい。子どもと大学での教え方は違

う。教え方をまとめたかどうかという意見もある。(小川委員)

- 学校で見ていただくような番組もあったら良い。(岡田委員長)
- 囲碁・将棋ファンがなかなか増えない現状をどのように変えていけるか、が一番の課題。理由と対策はなにか、を打ち出していくべき。(足立委員)
- 伝統文化の普及のポイントは、今の若い人たちへの普及。今の年配層が、盤で遊ぶことに慣れ親しんだ最後の世代。若い世代や子どもは、ネットやゲームでは遊ぶが、実際に盤ではやったことがないことが多い。そこをどうつなぐかが課題。現状は勿体ない。(兵頭委員)
- 囲碁・将棋を全く知らない人に興味を持ってもらうためにはどうするか。そして、興味を持って始めた人が続けていくために、何ができるのか。(金子委員)
- 東日本大震災の被災地では、電気を使わないアナログゲームが却ってコミュニケーションツールとして喜ばれた。そういったところに、囲碁・将棋の可能性を感じる。(金子委員)
- 囲碁・将棋を全く知らない人や興味のない人が、いきなり専門チャンネルを視聴することはほぼ無い。(岡田委員長)
- いきなり「覚えよう」というアプローチではなく、まずはマンガやアニメなど、囲碁・将棋に興味を持ってもらうきっかけや場、しゅみを作ることが大事。(金子委員、中村委員)

(囲碁・将棋チャンネル側)

- 今後放送予定の「王将戦」などは2日間にわたる対局で、どのように番組にまとめあげて放送するかが難しい。放送だけでなく、ネットとの連動をどうやるかということも含めて検討する。(岡本社長)

【番組制作について】

- 生放送をやってみては(経費やスポンサーの関係で難しくはあるが)。(岡田委員長)
- 長い対局などを流す場合は、全部放送しない方がいい。だらだらと流さず、適切な解説と編集を加えた番組として提供すべき。ドキュメント性が大事。(岡田委員長)
- 始めたばかりの人は、いきなり専門用語を連発してもわからない。それよりもプロ棋士の葛藤や、対局にまつわるドラマなどに魅せられることで、興味を持つのではないか。(岡田委員長)(中村委員)

(以上文中:敬称略)

囲碁・将棋チャンネルでは番組審議会委員のご意見を真摯に受け止め、今後の番組内容の向上に活かしていく所存です。

以上